第６学年１組　総合的な学習（いなほ学習）授業案

授業者

１　日　時　　平成２７年７月７日（火）　第５時限

２　単元名　　宝（HO）・舞（MY）・神（GOD）！　「植田の音色」を未来へ

３　単元の目標

（１）植田校区の伝統的な行事の変遷や実態について調べ，自分たちで地域の伝統をつないでいくために意欲的に活動する。（学習活動への関心・意欲・態度）

（２）植田校区の祭りや神事に関わる人々の思いに触れ，地域への愛着を高めるとともに，歴史ある文化をつないでいくために，自分たちにできることを考えて実践できる。（自己の生き方をめぐる思考・判断・表現）

（３）植田校区の歴史的な文化について，資料や地域の方の話から収集した情報や学んだことを整理し，地域に発信することができる。（学習活動に関わる技能）

（４）植田校区で受け継がれてきた歴史や文化に触れ，それらに関わってきた地域の人々の思いや実態を理解することができる。（生活実践課題に関わる知識・理解）

４　単元構想

【児童観】

本学級の児童は，新しいことや不思議なものに関心をもちやすく，実際に自分でやってみたがる傾向にある。社会科の古墳時代までの学習では，校内に展示してある土器や出土品に興味をもつと，休み時間にもじっくり眺めたり直接触れたりしている姿が見られた。自分で興味をもったことについて自主勉強で調べる児童も少しずつ増えてきている。普段の生活に目を向けると，きまりや友達の輪を大切にしながら過ごすことができ，学級の雰囲気はとても穏やかである。自分で決めることやこだわりを主張するのがあまり得意ではない児童が多いため，お話タイム「いなほトーク」を中心に，互いの考えを素直に言い合える関係づくりを目指して活動している。

また，校区の古墳について家庭で聞き取りを行った際には，「親以外に聞く人がいない。」という理由で白紙に近い内容の児童が何人もいた。本学級の児童２２名のうち，核家族は約７割を占めている。祖父母や地域との関わりが薄く，保護者の仕事などの都合で，子ども会や地域の行事にあまり参加できない家庭も多い様子である。

【教材観】

植田校区には１０００年以上の歴史をもつ寺社や行事が残っている。特に１区の「車神社古墳」と伝統行事「おしいばち」，２区の「素盞嗚神社」「奉納神楽」については，伝説や言い伝えが残るほど古くから地域に根づいている歴史的な文化財である。しかし，校区に古墳があることを知っているのは，その地区に住む子のごく一部に限られている。また，行事や祭礼の中には参加者の減少等によって消滅の危機にあるものもあるという実態は，祭礼等の関係者を除いてほとんど知られていない。今，誰かが行動しなければ消えてしまう歴史的な文化の現状と，それらに関わる人たちの思いを知ることで，自分自身と地域とのつながりを感じたり，地域の一員であるという自覚を促したりすることができる題材といえる。

【指導観】

本単元では，校区に残る古墳や出土品などの「もの」をきっかけに，伝説や行事などの「こと」，さらにはそれらに関わる「人」の姿を追っていく。特に，約２０年前に保存会が解散し，継承者が完全に途絶えかけている奉納神楽を調べる中で，お神楽に関わってきた方の思いの根底には，３００年以上の伝統を思うように継続できない切実な理由があることに気づかせたい。かつて実際に演奏していた小林さんや松井さんたちは「指導者の高齢化」，奉納会長の金子さんは「時代の変化による地域の協力者の減少」という問題を感じ，共に「伝統がなくなってほしくはない。」という思いをもちながらも，「続けられないのは仕方がない。」という結論に至っている。聞き取りを通して当事者たちの思いに触れることで，「自分たちもやりたい。」「復活させたい。」と思い始めた児童の考えが強くゆさぶられるだろう。また，地域へのアンケート等でさらに情報を集めることで，植田校区のお神楽を取り巻く実態をより正確にとらえることができるだろう。その後，お神楽の衰退についてそれぞれの思いを話し合う場を設定することで，厳しい現状を認めつつも，伝統を少しでも残していこうとする気持ちの高まりを期待したい。そして，市内で現在でもお神楽を続けている野依校区や，小学生が笛や太鼓を演奏する二川校区，吉田方校区，谷川校区などの存在をさらなる刺激としながら，地域の一員としての意識をさらに高め，自分たちの地域では消滅しかけている伝統文化を途絶えさせないような方法を追究，実践し続ける姿を期待したい。

6　本時の学習

（1）目　標

これまでの学習や本時の話し合いの内容をもとに,「お神楽の伝統をなくさない」ということがどういうことか,自分の考えをまとめることができる。（自己の生き方をめぐる思考・判断・表現）

（2）本時の授業構想

これまでの学習で，植田校区のお神楽の現状や地域の方の思いに触れ，さらに他の校区に残るお神楽の実態との比較を通して，自分たちの住む地域に残る伝統をなくさないために活動したいという思いが高まっている児童も多い。一方で，笛や太鼓の練習を続けることが難しいといった理由から，お神楽が再現できなくなっても何らかの資料通して残しておけばよいという考えをもつ児童も見られる。そこで，本時の活動を通して，「伝統をなくさない」という言葉に対する意識のずれに注目させたい。今も笛や太鼓が盛んな二川校区や吉田方校区の方々の思いをきっかけに，映像や資料などの「もの」だけではなく，移りゆく「人（技術）」や「思い」が大切にされてきたからこそお神楽の伝統が受け継がれてきたということに迫らせたい。そして，植田校区で小林さんたちが受け継いできたお神楽に関わる「人」や「思い」をつなぐために，これから自分たちができることを考えようとする気持ちの高まりを期待する。

（3）展　開

時間	学　習　活　動　　※教師の支援　　◎評価（方法）	
	植田のお神楽の伝統をなくさないためには，どうしたらいいのかな	※ これまでの学習過程を根拠にして自分の考えをまとめられるように，板書記録や掲示物による視覚支援を行う。
	【資料に残す】 ・伝統だから，お神楽があったことだけでも残したい。 ・雲谷神楽の楽譜みたいに，資料にまとめていこう。 【やる人を集める】 ・二川や吉田方みたいに地域全体でやれるといいのに。 ・地域の人に呼びかければもっと人が集まるよ。 【自分たちでやっていく】 ・他の地域で子どもお神楽があるから，植田でもやれる。 ・完璧に再現するのは無理でも，簡単にすればいい。	※ 話し合いの中で「なくさない」という言葉のとらえ方の違いに気づくことができるように，伝統や教える人の存在にこだわる児童を中心に，事前に朱書きを入れておく。
	簡単にしなくても，教えてもらったお神楽を動画に残せば，本物がいつまでも残るからいい。 資料に残しても，実際にお神楽を教えられる人がいなくなることがまずいんじゃないの。	
15	小林さんたちが教えられなくなったら，お神楽の伝統もなくなっちゃうと思うけどな。	※ 発言を苦手とする児童から目標に迫る具体的な考えを引き出すために，主発問に対して記述する時間を設定し，対話を行う。
20	実際にできる人がいなくなっても，それは「伝統をなくさない」ことになるのかな	
	【伝統をなくさないことになる】 ・資料に残しておけば，これからもお神楽の歴史としてずっと残っていくよ。 ・実際にお神楽をやるのが大変なんだったら，資料だけになっても仕方がないんじゃないかな。 ・やる人を集めるにも，資料は役に立つ。 【伝統をなくさないことには，ならない】 ・小林さんたちが「続けたい。」と言っていたのは実際のお神楽のことだから，資料で残っても意味がない。 ・谷川が子どもに強制してでもお神楽をやるのは，やる人を集めて伝統をなくさないようにするためだ。 ・昔やっていた，というのは伝統がなくなるのと同じ。	※ 「もの」だけではなく「人」や「思い」をつなぐ意見に注目できるように，他の校区のお神楽に関わる子どもや大人の思いを，聞き取りの記録や映像などで取り上げる。
	実際にお神楽をやるのは難しいって金子さんたちも言っている。練習するのだって，楽譜や映像は必要だ。 大変だからって，やめたら完全にお神楽の伝統は消えてしまう。簡単にしてでも，できるように練習しないと。	
38	資料だけじゃなく，実際のお神楽をやることも，伝統をなくさないためには大切なことだね。	◎ これまでの学びをもとに，お神楽の伝統をなくさないことがどういうことか，自分の考えをまとめることができたか。（発言・ワークシート）
	今日のふりかえりをしよう ※ 記述が苦手な児童が自分の考えを表せるようにするために，これまでの記録や板書を見直しながら対話を行う。	

（4）評　価

A基準	B基準
「お神楽の伝統をなくさない」ということがどういうことか，友達の意見や地域の方の思いをふまえながら，自分の考えを深めることができる。	「お神楽の伝統をなくさない」ということがどういうことか，これまでの学習をもとに，自分の考えをまとめることができる。

5　単元構想図

社会科【縄文のむらから古墳の国へ】「ひろげる～様々な形の古墳」⑥

植田校区にある古墳は，どんなものだろう（調べ学習①見学②話し合い①）

車神社に関係ある人に，くわしい話を聞きたいな。

総代の石川さんにお話を聞こう（講話②話し合い①）

車神社の歴史がずっと続いているのがすごい。他にも植田に歴史がありそうなものはあるかな。

２区には素盞嗚（すさのう）神社があるよ。こっちも見てみたいな。

目標
校区の古墳について興味，関心をもち，古墳を通じて地域の歴史を調べようとする。

総合的な学習の時間（いなほ学習）（３６時間完了，本時２７／３６）

素盞嗚神社はどんな神社だろう（調べ学習①見学②話し合い①）※１

・昔は奉納神楽があって，獅子舞を踊っていたらしい。おしいばちとは違って，今ではもうやっていないと資料には書いてあったよ。
・中学生もやっていたお神楽はどんなものだったのかな。知っている人はいないかな。

お神楽にかかわっている人に，くわしい話を聞きたいな。

お神楽の奏者の小林さんたちにお話を聞こう（聞き取り②話し合い①）※２

・実際に演奏をしてもらって，本物の音が聴けてよかった。

・映像では笛や舞が見られたけど，お年寄りには体力的に難しいみたいだ。

・学校に同じような笛や太鼓はあるのかな。自分でもやってみたい。

もっとお神楽のことを知りたいな（活動①調べ学習①話し合い①）※３

・笛の音が出ない。こつがあるのかな。
・楽譜があるといいな。

・お神楽は植田だけの行事じゃないみたいだ。豊橋にもいくつかあるよ。

・植田では２０年前からやっていない。なんでやらなくなったのだろう。

演奏のこつやわからないことを，また小林さんたちに教えてもらおう。

小林さんたちにくわしく教えてもらおう（聞き取り②話し合い①）※４

【松井さん，山本さんの話】
・五線譜の楽譜はないが，笛は小学生でもできる。とにかく練習していけば音は鳴る。（神楽奏者）

【金子さんの話】
・かつてお神楽保存会を作ったが，続けたくても働き方や考え方の変化で続かなかった。（奉賛会長）

【小林さんの話】
・経験者はみんな高齢。できればだれかに受けついでもらいたいが，難しい。（保存会主催者）

教えてもらおうにも，みんな高齢で難しいみたいだ。続けようという気持ちがあっても，続けるのはすごく大変なんだな。

このままだと，植田のお神楽が完全になくなってしまうときが来るのでは。他の人はどう思っているんだろう。

お神楽について，校区の人はどう思っているのかな（調べ学習①話し合い①）※５

・自分の家族はほとんど何も知らなかった。２区でも知っている人は少ない。

・アンケートは，なくなっても仕方ない，継続は難しいという意見が多い。

・見てみたい，続けてほしい，伝統が消えるのはさみしいという意見も。

お神楽の存在を知っている人すら少ないよ。このまま植田の文化が完全に消えてしまうのかな。

※1 一人調べで生まれた疑問や気づきを確かめたり見直したりできるように，実物や地域の方との出会いの場を設定する。

※2 本物のお神楽を体感して学習への関心を高められるように，当時の獅子や楽器に触れたり，直に音色を聴いたりする機会を設定する。

※3 笛や太鼓の体験活動を通して学ぶ意欲を継続させるために，校内で笛や太鼓に触れられるよう環境を整える。

※4 お神楽が完全に消滅しかけていることへの気づきを促すために，お神楽を取り巻く環境や関わってきた人の切実な思いを知る場を設定する。

※5 お神楽について地域の方の多様な思いや情報を集めるために，児童が考えたアンケートを実施できるよう家庭や地域に働きかける。

このまま植田のお神楽がなくなるのは，仕方がないことなのだろうか（調べ学習①話し合い①）※6

【仕方がない】
・みんな働いていて忙しい。練習や準備の時間がないから，やっても続かない。
・保存会も長くは続かなかった。もう無理じゃないかな。

【なくなってほしくない】
・小林さんは，「続けてくれる人がいればいいがなあ。」と言っていた。自分も植田の伝統がなくなるのはさびしい。
・続けるのは大変でも伝統は残したい。

なくなるのはいやでも，実際にどうすればいいのだろうか。
豊橋にもお神楽を続けているところがある。植田との違いはなんだろう。

お神楽を今でも続けている地域を調べよう（調べ学習②話し合い①）※7

・隣の野依でやっている。でも，大人だけでやっているみたいだな。

・二川や吉田方も祭で笛や太鼓を子どもがやっている。動画も見つけたよ。

・谷川の雲谷町では子どもが参加しているお神楽がある。神楽保存会のホームページがあったよ。

本やインターネットじゃ情報が少ない。お神楽をやっている子がいるなら，直接話を聞きたいな。

他の校区でお神楽をやっている子たちに聞いてみよう（調べ学習③話し合い①）※8

【二川校区】
・大人だけでなく小中学生も関わっている。お祭りに熱心なんだな。

【吉田方校区】
・楽しい，かっこいいから始めたっていう子が多い。植田とは違うな。

【谷川校区】
・楽譜や映像を見ながら練習している。強制でやらされる子も多いな。

・アンケートでは楽しいっていう子が多いけど，何が楽しいのかな。もう一度聞きたい。
・教えている大人の人にも，お神楽のやりがいやどんな思いでやっているか聞いてみたい。

・始めはごほうび目あてだったけど，だんだん笛や太鼓が面白くなったんだって。そうなんだ。
・大人でも，強制的にやらされるうちに伝統を継ぐ大切さを感じたって。強制も必要なのかも。

他の地域では，お神楽の伝統をなくさないようにいろんな方法を考えているよ。植田でも参考にできないかな。

植田のお神楽の伝統をなくさないためには，どうしたらいいのかな（調べ学習②話し合い① 本時）※9

【資料に残す】
・伝統だから，お神楽があったことだけでも残したい。
・雲谷神楽の楽譜みたいに，資料にまとめていこう。

【やる人を集める】
・二川や吉田方みたいに地域全体でやれるといいのに。
・地域の人に呼びかければもっと人が集まるよ。

【自分たちでやっていく】
・他の地域で子どもお神楽があるから，植田でもやれる。
・完璧に再現するのは無理でも，簡単にすればいい。

実際にできる人がいなくなっても，それは「伝統をなくさない」ことになるのかな。
資料だけじゃなく，実際のお神楽をやることも，伝統をなくさないためには大切なことだね。

自分たちの思いを，たくさんの人に伝えよう（調べ学習，話し合い，活動⑧）※10

【自分たちでもお神楽をやってみる】
・学芸会で発表すれば，下級生にも地域の人にも知ってもらえる。楽譜作りや練習の仕方を教えてほしい。小林さんたちにお願いしたいな。

【自分たちの取り組みを発信する】
・自分たちのがんばりを知れば，協力してくれる人が増えるかもしれない。お神楽の様子，地域の人たちや自分たちの思いを，写真や文でまとめよう。

これまでの学習をふりかえろう（ふりかえり①）※11

・自分たちで，少しでも植田のお神楽の伝統をつないでいくことができたかな。
・自分たちのやってきたことが，下級生や地域にも引き継がれていくといいな。

これからも植田の歴史ある文化を大切にしていきたいな。

※6　聞き取りやアンケート結果から得た学びや地域の方の思いを活用しながら話し合いを進められるように，これまでの学習過程を教室に掲示する。

※7　児童が他の地域の情報をより多く得ることができるように，行事の様子や資料などを事前に集めておき，必要に応じて紹介する。

※8　他の校区でお神楽をやっている子どもたちのありのままの声を聞くことができるように，学校間でアンケートやインターネットを活用して双方向の交流ができる環境を整える。

※9　「もの」だけではなく「人」や「思い」をつなぐ意見に注目させるために，他の校区のお神楽に関わる子どもや大人の思いを，聞き取りの記録や映像などで取り上げる。

※10　お神楽の伝統を受け継いでいく活動をより効果的なものにするために，これまで交流をもった植田校区や他の校区の方に改めて相談したり参考になることを教えてもらったりする機会を繰り返し設ける。

※11　これからの自分と地域との関わり方を見つめ直すきっかけとするために，調べ学習の記録や写真，映像などをもとにして意見交換を行う。